

TAVIとはTranscatheter Aortic Valve Implantationの略語で、「経カテーテル的大動脈弁植え込み術」と訳される重症の「大動脈弁狭窄症[※]」に対する新しい治療法です。

大動脈弁は心臓の出口にあり、心臓から大動脈に送り出した血液が心臓に逆流しないよう3枚の弁が組み合わさり、大きく開きしっかりと閉じる仕組みになっています。この大動脈弁が加齢などにより石灰化して硬くなり、弁が開きにくくなることで、血液の流れが妨げられてしまう疾患を大動脈弁狭窄症といいます。大動脈弁狭窄症は、進行すると息切れや心不全症状が出現し、突然死などのリスクが高くなります。そのため、硬くなった弁を人工の弁に取り替える必要があります。代表的な治療法は「大動脈弁置換術」という開胸手術で、心臓を一時的に停止させ、狭窄している大動脈弁を人工弁に取り替えるものです。この手術はすでに術式が確立しており、安全で確実性の高い手術です。しかし、ご高齢の方や、がんのある方、開胸手術や放射線照射の既往のある方、ステロイド内服中の方、肺や

肝臓などに重度な疾患がある方はこの手術が出来ない、または危険度が著しく高くなる場合があります。そのような患者さんを対象にした新しい治療法として開発されたのがTAVIです。

TAVIは、心臓が動いている状態で、カテーテルを使って人工弁を植え込みます。太ももの付け根の血管から挿入する「経大腿アプローチ」と、左胸の肋骨の間を小さく切開し、心臓の先端（心尖部）から挿入する「経心尖アプローチ」がありますが、経大腿アプローチが多く用いられています。経大腿アプローチでは胸部の切開は必要ありません。当院では2019年の新病院開設に伴い、手術室に心血管・脳血管撮影装置を組み合わせた手術室であるハイブリッド手術室が設置され、TAVIの申請が可能となりました。2019年12月に申請を行い、2020年8月28日に現地調査、10月13日に施設認定を受け、12月4日に第一例が施行されています。

TAVIを行うには、ハートチームの存在が不可欠です。当院でも高度なカテーテル治療の技術を持つ循環器内科医師と心臓

血管外科医師を中心に麻酔科医師、臨床工学技士、看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、事務職員など、総合病院であることを活かし、様々な職種の特任者からなるハートチームを作り、TAVIに取り組んでいます。

※「大動脈弁狭窄症」とは、大動脈弁が動脈硬化によって硬くなり弁の開口部が狭くなる病気で、高齢者に増えています。放置すると息切れや心不全などの症状が出て、1〜2年でなくなる人が多いです。



生体弁を留置した後は、カテーテルを抜き取ります。

エドワーズ ライフ サイエンス 株式会社 提供